



城陽おひさまプロジェクト news 第43号

2021年3月8日 NPO 法人市民共同発電をひろげる城陽の会

0774-55-4190 <http://jyoyonokai.sakura.ne.jp>

白熱電球とLED電球の無料交換会 2月14日に文パルで 100個全て交換、普及に余地あり、運営には課題も 4kw太陽光パネル3軒分の電力生み出す、ネガワット実現

2月14日に開催しました「LED電球と白熱電球の交換会」は目標としていた100個のLED電球全てを白熱電球や蛍光灯(直管含む)など多数の従来型電球と交換することができました。企画当初に心配されていた”既に多くの家庭で照明はLED化されているのではないかと”の予想を覆すものであり、スタッフ一同まだまだLEDの普及には力を入れなければならない現実を思い知らされる結果となりました。それだけに12時から始まった交換会1部において、多くの方が参集され、急遽整理券を発行混雑の解消をはかるなどの措置をとりましたが、主催者として反省すべき課題もありました。しかし、今回の企画からは省エネ(ネガワット)や再エネをすすめていくことの重要性が再認識された交換会となりました。

10時半には交換求める人が

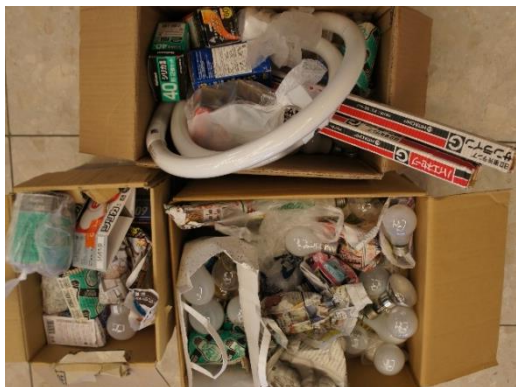
準備を9時から始めましたが、広い会場なのでいろいろと手間取っているうちに10時半も過ぎるころから電球を持った人がボチボチと会場を訪れだし、11時半頃には行列が出来てしまいました。温暖化



交換会の会場(検温・消毒・受付付近)

防止センターの河田さんが、混雑が予想されるので整理券の発行などを検討してはとのアドバイス。12時の土居理事長の挨拶で交換会1部を開始した直後に整理券を発行して、1時30分からの2部に回って頂くようお願いをして混雑を解消していきました。

交換に来られた人には、まず最初に検温をして頂き、次に消毒。ここで京都府が作成したメモ帳と当会リーフ渡し、次のコーナーに案内します。案内コーナーでは「交換券(連絡先記入用紙)」にお名前と電話番号、住所の市町名を記帳していただきます。次の交換コーナーでは持参された白熱電球と「交換券」を受け取り、LED電球(星和電機のプレゼント券とLEDの説明票付)をお渡しします。このコーナーではいろいろなことがありました。小さな乳白色の電球を持参され、同じものと交換してくれと言うご夫婦がおられました。「LED電球は26口金、40w又は60w相当のものしかできない」と対応すると、「今使っているのを外してきたので違うものでは困る」とのこと交換せずに帰られたり、「蛍光灯でもいいですか」と直管を持ってこられたり(これは交換しました)と多彩な場面がありました。口径の大きな電球から小さな豆球迄多様な電球が交換されました。



交換された電球の数々

本会のパネルやベランダ発電などの展示コーナーでは電気エネルギー比較実験器のLED(4w)蛍光灯(6w)・白熱灯(33w)の使用電力の違いを見て「こんなにも違うのか」と驚かれた男性がおられました。電力の違いは電気代の違い、二酸化炭素の排出量の違いにな

るのでLEDに替えて地球とお財布にやさしくしてくださいと説明、私たちの会の活動を紹介したパネルでは写真に写った屋根の太陽光パネルを熱心に見ておられる方もおられました。

ビデオのコーナーでは2019年9月、国連気候サミットでスウェーデンの環境活動家・高校生のグレダ・トウンベリさんのスピーチ(5分)と昨年12月に行われた、国の施設では2021年度からは再エネが30%以上入った電力を使用するように通知した、との小泉・河野両大臣の共同記者会見(1分)を繰り返して上映しました。椅子を5脚並べて随時見て頂くようにしました。ゆっくりと見ておられる人を見受けました。

1時半から2部を開始、LED電球100個交換完了

応援企業・団体のパネルでは、星和電機(株)のコーナーでは「プレゼントのLED付ボールペンの使い方を尋ねられる方も多かった」と言う事でしたが、城陽市内で星和電機のLEDが使われている箇所のパネルを見てくれている人も多くおられて、「市内のいろんなところに星和電機の製品がつかわれていることを知って頂く機会になりました」と麻生さん。エーシック(株)のコーナーでは置かれている製品の紹介チラシを持って行かれる方が多くおられました。てくのハウス(株)MAKINO 城陽店と京都中小企業家同友会のコーナーでは町の電器屋さんの役割や良い経営者になろうなどの同友会の理念を伝えることができたのではないかとのこと。牧野さんは「質問される方にはしっかり電器屋の果たす役割を説明しています」との事でした。



応援企業のコーナー

2部では混雑はなく、ゆっくりパネルを見たりしていかれる方も多く、1時間程度でほとんどのLED電球の交換が終わり、3時頃には100個すべての交換を完了しました。3時過ぎ、片付けをしている時にも電球を持った方が来られて「すいません、終了しました。」とお断りしなければなりませんでした。

2部では混雑はなく、ゆっくりパネルを見たりしていかれる方も多く、1時間程度でほとんどのLED電球の交換が終わり、3時頃には100個すべての交換を完了しました。3時過ぎ、片付けをしている時にも電球を持った方が来られて「すいません、終了しました。」とお断りしなければなりませんでした。

省エネ診断にも2名の参加、新会員の加入も

会場に来ていただいた方は、交換:城陽の方87名・宇治の方11名・八幡・京都の方が各1名、見学の方は城陽の方13名・宇治の方3名・京田辺の方1名でした。やはり城陽の方が圧倒的です。また、省エネ診断シートも2名の方から提出があり、結果をお届けしました。持参され交換した電球は151個に上ります。その90%以上が白熱電球でした。また、活動に賛同された方の加入もあり、うれしい限りです。

100個の交換により、計算上は年間12000kwh以上の節電となり、電気料金は30万円以上の節約となります。CO₂の排出量は5.6tカットとなり地球環境にもお財布にやさしい取り組みとなったのではない

でしょうか。また、節電量12000kwhは4kwの太陽光発電設備を3軒の屋根に設置したのと同じ効果となります。

なお、40w相当のLED電球1個、年間の節電量は135kwh、料金は3300円の節約、62kgのCO₂カット。60w相当のLED電球のそれは89kwh、2200円、41kgのカットとなります。

応援して頂いた企業・団体はエーシック(株)、てくのハウス(株)MAKINO城陽店、京都中小企業家同友会城陽綴喜支部、星和電機(株)、の方々です。ありがとうございました。



終了後、スタッフ全員で記念撮影

応援を頂いた方々からは次のような感想や激励を頂きました。

☆ 温暖化防止センター・河田さん

LED交換会は企画、準備、当日と本当にお疲れ様でした！！朝から行列でびっくりでしたね。新聞効果があったとはいえ、あんなにたくさんの人に来ていただけてすごいです。他の地域の人も興味津々なはずですよ。

☆ 星和電機(株)・麻生さん

NPO活動が大盛況でありまた新たに賛同者もおられたとの事。地道な活動ではありますが今後ともご活躍いただきますようお願い申し上げます。また各関係者にもよろしくお伝えください。

☆ てくのハウスMAKINO城陽店・牧野さん

初めての試みでしたので若干運営の反省点は有ったとは思いますが、コロナ禍にもかかわらず果敢に一步目を出された事に敬意を表したいと思います。市民の皆様の反応も上々で当初の目的は達成されたと感じております。私としても電器店として可能な限り省エネ、蓄エネ、創エネを推進してまいりたいと思います。



LED電球交換会、当日の様子を伝える洛タイ新報 2/16号

京田辺市が「ゼロカーボンシティ」宣言、南山城地域では初

府下7番目、全国1億人以上が暮らす地域で宣言

全国では281自治体(33都道府県・166市・3特別区・61町・18村)、1億131万人が暮らす地域で宣言されている「ゼロカーボンシティ」を京田辺市が2月12日に宣言を行いました。京都では京都府・京都市・宮津市・亀岡市・京田辺市・大山崎町・与謝野町の7自治体が宣言しています。(2/25 現在 環境省hpより)

京田辺上村市長は、2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。



宣言文を手にする上村京田辺市長

国は、この目標達成に向け、脱炭素で持続可能な社会への転換を実現するためには、これまでの枠組みにとらわれない社会的および経済的なシステム全体の転換が早急に必要であるとして、2020年に「2050年までに国内の二酸化炭素など温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」ことを宣言するとともに、地方自治体等にも参画が促されたところです。として2050年までに市内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を山城地域では、最初に宣言されました。京田辺市hpより

本会の要望に、2月16日付で城陽市から回答

温室効果ガス排出量は343598t-co2、2013年比5万 t-co2 減少

1月15日付で提出していましたが「2021年城陽市の脱炭素社会に向けてのお尋ねと要望」について、2月16日付で回答がありました。全文は本会ホームページに公開しています。ぜひお読みください。

前年にもほぼ同じ項目での回答を得ています。それとの比較表(一部)を下記にまとめました。大きく前進しているところはありませんが、温室効果ガス排出量は約34万3千t-CO₂で昨年の約36万4千t-CO₂よりも約2万t-CO₂減少しました。城陽市民一人当たりでも4.68t-CO₂から4.45t-CO₂へ、約5%削減がすすんでいます。基準としている2013(h25)年に比べ5万3千t-CO₂減少していますが、この割合で2050年に「ゼロカーボンシティ」が実現するのでしょうか。次回の要望ではその点での「お尋ね」も必要になってきます。また、環境配慮契約を昨年は「調査検討中」とされていましたが、今年は「契約を実施」となって前進が見られました。また、引き続き「調査検討を進めます。」とも書かれていますので、より良い環境配慮契約となるよう見守りましょう。

「ゼロカーボンシティ」宣言について、昨年の回答は「予定なし」でした。今年は回答文に当該要望に対する文言が見当たりません。京田辺市や国の動向、全国で1億人をこえる住民が住んでいる自治体で宣言が行われていることを踏まえて、宣言を行う予兆ではないかと期待をしているところです。街灯のLED化は0.2%進みました。

昨年1年間に市役所の庁舎や幼稚園・小中学校・保育園・水道、消防庁舎で使われた電気やガスなどでの使用料金は約2億890万円、昨年比665万円の減となりました。電力は関西電力だけでなく新エネルギー開発(株)から購入しています。新エネルギー開発(株)は伊丹産業系列のグループ企業、再エネ比率は9%と公表されています。庁舎などで使用された電力使用量は397万kwh(2019年)から390万kwh(2020年)と7万kwh減少となりました。2020年の使用量で最も多く使っているのは小学校(10校)で30.8%、次が中学校の20.3%、教育関係で約半分を使用しています。新電力による供給は44.9%、半分近くを占めていることが判りました。

城陽市の回答(一部)

項目\回答の年月	21年2月	20年3月
温室効果ガス排出量 t-CO ₂	343598 (2017年度)	364021 (2016年度)
一人当排出量 t-CO ₂	4.4542	4.6869
再エネ比率	公表できる数字なし	-----
ゼロシティ宣言	回答なし	予定なし
LED化	85.20%	85%
環境配慮契約	契約を実施	調査検討中
市駐車場LED外灯	10台	10台
新駐輪場	LED照明を採用	-----
雨水貯留施設補助制度/実績	13件 343000円	7件 172000円
雨水貯留施設補助制度/予算	9件 243000円	10件 260000円

新エネルギー開発(株)は伊丹産業系列のグループ企業、再エネ比率は9%と公表されています。庁舎などで使用された電力使用量は397万kwh(2019年)から390万kwh(2020年)と7万kwh減少となりました。2020年の使用量で最も多く使っているのは小学校(10校)で30.8%、次が中学校の20.3%、教育関係で約半分を使用しています。新電力による供給は44.9%、半分近くを占めていることが判りました。

私たちが継続して求め

ています、イモ発電や地中熱利用、地元電力会社の設立、メガソーラー設置の際に地域住民参加をうたう条例づくりなどは、相変わらず否定的な回答になっています。



本会のQRコードです。スマホなどをかざすと本会ホームページを閲覧することが簡単にできます。お試しください。

NPO法人市民共同発電をひろげる城陽の会

連絡先 0774-55-4190 e-mail bnkmf858@kcn.jp 2021(r03)/03/08